

2022年5月30日

報道関係各位



株式会社シーディーアイ
代表取締役社長 濱岡 邦雅

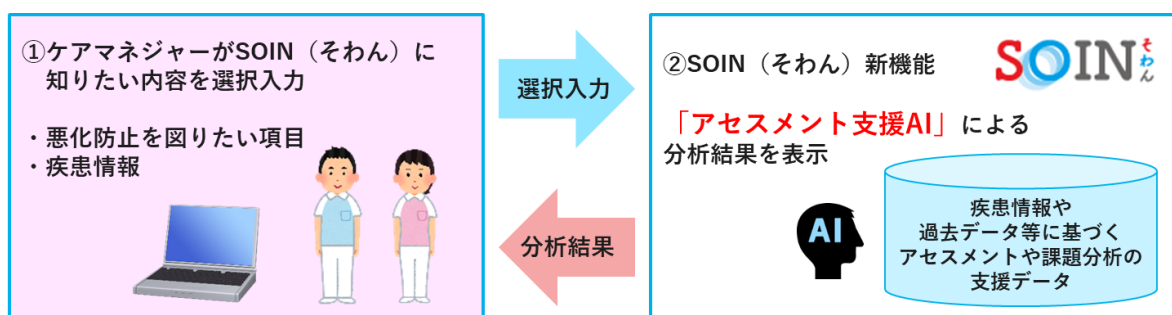
AIケアプラン SOIN（そわん）に「アセスメント支援AI」を追加
根拠をもった適切なケアマネジメントを強力にバックアップ

株式会社シーディーアイ（代表取締役社長 濱岡 邦雅、本社：東京都中央区、以下「CD I」）は、AI（人工知能）ケアマネジメント支援ツール SOIN（そわん）に新機能として、「アセスメント支援AI」を追加しました。

今回の機能追加は「適切なケアマネジメント」や「自立支援」をより深く実践するために、アセスメントや課題分析の支援機能が欲しいというお客様の声に応えたものになります。SOIN（そわん）ユーザーは、本機能を追加料金無しでご利用いただけます。

本機能は、疾患情報や過去データを活用し、AIからの分析結果を示すことにより、アセスメントや課題分析において新たな気づきを支援します。これにより、これまで以上に自立支援・重度化防止に向けた質の高いケアマネジメントが可能となります。

今後も、現場の皆様がより根拠をもったケアマネジメントを実践できるツールとして、機能拡充を進めてまいります。



SOIN（そわん）新機能：「アセスメント支援AI」の概要説明

《アセスメント支援AIの概要》

- 状態に関する分析結果
 - ケアマネジャーが選択した「悪化防止を図りたい項目」に対する分析結果と留意すべきアセスメント項目を表示
 - AIが重要と判断した項目に対する分析結果と留意すべきアセスメント項目を表示
- 疾患に関する分析結果
 - ケアマネジャーが選択した疾患情報に対する留意すべきアセスメント項目を表示

《画面イメージ》

- 状態に関する分析結果（ケアマネジャーが選択した項目）
 - ケアマネジャーが選択した「悪化防止を図りたい項目」に対する分析結果を表示
 - 「留意すべきアセスメント項目」をカテゴリー別に提案

分析1：状態に関する分析

悪化防止を図りたい項目（あなたが選択した項目: 排泄）

排泄は現在自立ですが、おおよそ6割の確率で、今後も維持する可能性があります。また、要介護1の方の排泄は8割の方が自立していますが、次回認定調査時には約3割の方が悪化します。自立の状態であってもやや悪化しやすい項目という認識が必要です。排泄の維持には認知機能が重要です。金銭の管理や買い物等は介助が必要でも日常生活全般は自立できるレベルの認知機能を保つことが、排泄の維持改善に寄与します。また、週1回以上の外出は効果があります。他にも、立ち上がりや立位バランスが不安定な場合はトイレに手すりをつけることをおすすめします。したがって、以下のような視点を確認してみたいかがでしょうか。

生活状況

- 排泄に関する本人の気持ち（外出先での不安や失敗エピソードなど）
- 排泄リズム（頻度、タイミング、内容など）
- 夜間の排泄方法（Pトイレ、尿取りパットの使用など）

支援内容・環境（家族、地域、サービス等）

- 家族やサービス事業者から排泄状況の聴取
- 介助が必要になった場合のトイレ内の環境や導線（手すりの必要性など）
- 今後の見直しや悪化防止の支援の検討

ADLや身体・認知機能

- 排泄動作の確認（トイレまでの移動やズボン・パンツ等の着脱の安定性、陰部・肛門の清拭、失敗した際の後処理）
- 認知症状の有無や進行（失禁が増えたなど）

- 状態に関する分析結果（AIが選択した項目）
 - AIが重要と判断した項目に対する分析結果を表示
 - 上記と同様に、「留意すべきアセスメント項目」をカテゴリー別に提案

改善が期待できる項目（AIが選択した項目: 薬の内服）

薬の内服は現在全介助ですが、おおよそ5割の確率で、今後改善する可能性があります。排泄以外で、改善が最も期待できる項目が薬の内服です。また、要介護1の方の薬の内服は4人に1人は自立、4人に3人は一部介助です。薬の内服の維持・改善には、認知機能の中でも特に短期記憶の維持することが重要です。以前と比べ悪化していないか注意をしましょう。認知症対応型のサービスや生活介護サービスは、薬の内服を維持させるためには有効ですが、改善には寄与しないため、目標に沿った利用をおすすめします。したがって、以下のような視点を確認してみたいかがでしょうか。

生活状況

- 本人・家族等の理解度（医師及び専門職からの指導内容、服薬の必要性など）
- 処方薬の内容（処方薬の種類）及び服用状況（正しい量・頻度、服薬時間など）
- 薬の管理状況（薬の保管場所、服薬時の確認方法、残薬の確認など）
- 適院状況（場所、方法、頻度、医師の意見など）
- 外用薬の把握（点眼、貼付ができるか）
- 併存疾患（腎疾患や糖尿病など）の確認（有無、程度、治療の内容、適院・服薬の状況）

支援内容・環境（家族、地域、サービス等）

- 服薬管理体制（処方に沿って服用できているか、誰が、いつ、どのように確認するかなど）
- 服薬管理の工夫（薬の一包化、お薬カレンダーなど）
- 介助状況（介護拒否の有無や負担度合いなど）

ADLや身体・認知機能

- 認知機能の低下の進行（服薬の重要性を理解できない、介護に抵抗するなど）

● 疾患に関する分析結果

- ケアマネジャーが選択した疾患情報をもとに「留意すべきアセスメント項目」を提案

分析2：疾患（認知症）に関する分析
転倒予防の対策 <ul style="list-style-type: none">● 筋力低下（麻痺も含め）や空間認識の低下などの機能低下● 自宅内外の本人の生活習慣（動線、よく過ごす場所、出かける先、日課など）● 自宅内の転倒リスクの評価と対応状況（住宅改修、福祉用具の利用、片付けなど）● 日常的な体重管理（急激な体重の増減、管理方法）
経緯の把握 <ul style="list-style-type: none">● 診断に至るまでのエピソード● 疾患に対する本人の思い● 日常生活に影響する中核症状の現れ方● 医師・専門職からの指導や問い合わせの内容（日常生活における留意事項や症状の判断の目安など）● 併存疾患（腎疾患や糖尿病、骨折歴等）の有無、程度、治療の状況、通院の有無、服薬状況
意思決定の支援 <ul style="list-style-type: none">● 本人の意思決定能力と意思決定に関する本人の思い● 家族管理の状況● 本人の意思決定支援のための活用しうる地域資源の有無やサービス内容の検討や利用状況の把握● 今の生活と今後の生活に関する本人の思い● 生活歴や成育歴● 本人が得意としていること● 日常生活で起きた出来事に対する本人の反応や、エピソード● 疾患発症前の家庭内や地域社会における本人の役割● 本人の代理として意思決定しうる人の有無、本人との関係性● 意思決定支援チームの情報共有体制構築や支援方法
生活リズムの支援 <ul style="list-style-type: none">● 本人の1日の生活リズム（食事時間や就寝時間など）や過ごし方（よくいる場所、動線、日課など）● 支援者の関わり状況（声かけが必要な場面、声かけしている人、介護者の生活リズムなど）● 本人にとって心地よい生活リズムの把握、リズムの崩れがある場合はその要因と対策● 日常的な活動の状況（運動機会、内容、負荷の度合い、本人の意欲など）● エアコン等の家電の操作状況● 休養・睡眠の状況（時間、不眠、中途覚醒のうむ、息苦しさ、疲労感など）

《アセスメント支援AIの活用想定場面》

- アセスメントや課題分析
 - アセスメントの漏れの有無を確認
 - 将来の状態予測を加味して、状態悪化を未然に防ぐための視点を確認
- 担当者会議
 - 多職種へのヒアリング項目を整理
 - 将来の状態予測を考慮したディスカッションや対策を検討

《AI（人工知能）ケアマネジメント支援ツールSOIN（そわん）とは》

膨大な過去の介護サービスご利用者様のデータをもとに、状態改善に効果的なサービスのプランの提案と将来の状態予測を行うケアマネジメント支援ツールです。

《会社概要》

会社名：株式会社シーディーアイ

中立性・独立性を備えた立場で介護業界全体を巻き込み、「介護×AI」をキーワードとしたオープンイノベーションを起こし、社会課題解決に挑戦することを目的として、2017年に、株式会社産業革新機構（現INCJ）、セントケア・ホールディング株式会社等により会社設立。2018年に、自立支援型AIケアプランシステムを国内で初めて商用化。

HP : <https://www.cd-inc.co.jp/>

AIケアプラン SOIN(そわん) : <https://soin.tech/>

《お問い合わせ先》

〒104-0031 東京都中央区京橋3-1-1 東京スクエアガーデン14階

経営企画部 広報担当：渡邊

電話：050-5491-7123

E-mail : info@cd-inc.co.jp

以上